

4月、新年度の始まりです。自然も新しいシーズンを迎えたところ。石神の丘では少しずつ木々が芽吹き、風景が鮮やかな色に変わりつ



石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2008.4.1 Vol.66

つあります。これから初夏にかけて屋外展示場は、草木がぐんぐん成長し、山野草が次々に花を咲かせるなど、日々その姿をかえます。ときには「ケーン、ケーン」となくキジにも出会えるかもしれません。4月下旬から5月上旬にかけては、屋外展示場へ出てすぐ右手の斜面に咲くスイセンもオススメのひとつ。庭先や田畑でも見かけるおなじみの花ですが、一面に咲き、明るい黄色や白色が風に揺れる様子は、花たちがおしゃべりをしているような可愛らしさがあります。甘い香りも楽しめますよ。

企画展示室では、4月13日(日)まで「第9回 発掘された岩手町の遺跡展—20年の歩み展」を開催しています。これまでの発掘調査の成果や、貴重な遺物もさることながら、この展覧会の隠れた人気となっているのが展覧会にあわせ販売している「勾玉(まがたま)キット」。古代のアクセサリ「勾玉」を滑石(かっせき)や琥珀(こはく)で手づくりしてみたいかでしょうか。4月26日(土)からは、美術館が開館して15周年、また美術団体「エコー・ド・エヌ」が盛岡で50回目の展覧会を開くことを記念して「岩手町からはじまった美術団体〈エコー・ド・エヌ〉草創期展」を開催します。

第9回 発掘された岩手町の遺跡展

—20年の歩み展—

観覧無料

会 期:4月13日〔日〕まで

開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

※会期中休館日はありません

アートサイト

気になること

岩手県立美術館の常設展示室に行く、その前で決まって立ち止まってしまおう作品がある。萬鉄五郎の《雲のある自画像》だ。

絵は一面の黒っぽい背景で、中央に憔悴しきったような表情の男の上半身が描かれている。髪はやや中央で少し左右に分かれ、紫がかかった色をしている。奇妙なのは、頭のすぐ上にサツマイモのような雲が、頭部すれすれに描かれていることである。

まず通常、頭のすぐ上に雲があることなどはありえない。肩を落とし、隈のある顔をやや俯かせて、頭の上に心臓のような

雲。どう見ても奇妙な印象を受ける。人物は精神的にも肉体的にも、疲労困憊しているように見受けられる。

さて、絵の題名は誰が付けたのか。《雲のある自画像》という題をもつ作品はほかにもある。もし萬が自ら付けたタイトルなら、萬は、その雲に何らかの意味付けをしていたと考えられる。

それは何か。頭上に描いた雲は、自身の魂(たましい)を意味しているのではないかと私は考えている。魂の抜けてしまった自分の姿。それが、この絵の主題ではないのか。そう考えると、納得がいく。しかし、憔悴しきった自身の姿を萬はなぜ描いたのか。

それもまた疑問である。萬は人間のさまざまな姿を描いている。そのなかの一つで、特に、この絵は、心理描写への試みで

あったとみることもできそうである。

萬には、ほかにも別の《雲のある自画像》がある。こちらは和服姿の男が描かれ、頭部の左右に赤い雲と緑の雲が描かれている。空も濃い青系で画面も暗い印象を与えない。男は和服姿で表情も柔和に描かれている。

同じ題名を持つ二つの絵の、この極端な違いは何なのか。萬の代表作のひとつ《裸体美人》の頭上にもピンクの雲が大きく描かれているが、これも意味ありげで、ずっと気になっている。いざれ考えてみたいと思っ

雲といえはルソーの自画像に描かれている雲も気になっている。あの雲は日本の概念図だとは思えないのだが、確証はない。が、確信はある。

(芸術監督・六岡 康光)

企画展示室 ■ 4月13日(日)まで開催 ■

第9回 発掘された岩手町の遺跡展 —20年の歩み展—

岩手町教育委員会が町内の発掘調査をはじめから今年で20年。この展覧会では、教育委員会が発掘調査を行った岩手町内12の遺跡を紹介するほか、遮光器土偶や土面などこれまでに町内で発見された貴重な遺物を紹介しています。展示品の中には、ミニチュア土器やオカリナ型の土器、勾玉等の装身具など、めずらしいものもたくさんありますよ。ぜひ、この機会にご覧ください。

観覧無料



企画展示室 ■ 4月26日(土)から開催 ■

石神の丘美術館開館15周年記念/第50回記念エコール・ド・エヌ盛岡展

岩手町からはじまった美術団体 〈エコール・ド・エヌ〉草創期展



1962(昭和37)年「第1回エコール・ド・エヌ盛岡展」会場/川徳デパート
(後列左から)嶋屋征一/齋藤孝三/及川久/福川博喜/齋藤忠誠(前列)海野経/稲村健二/柳沢洋四郎/高橋昭治

美術団体「エコール・ド・エヌ」は、1957(昭和32)年、岩手町沼宮内で誕生しました。当時、盛岡以南に比べ芸術運動の少なかった県北で誕生した団体は、活発な活動を展開し、岩手の美術に一つの流れをつくったといえるでしょう。この展覧会は、岩手町における芸術振興にも大きな役割を果たした美術団体「エコール・ド・エヌ」の草創期を当時の会員作品や写真資料等を通じ振り返ります。

会期:2008年4月26日(土)~6月15日(日) ※会期中休館日はありません
観覧料:一般300円/大・高生200円/中学生以下無料 ※屋外観覧含む

石神の丘にも春がきた



3月19日、屋外展示場にフクジュソウが咲いているのを見つけました。シロバナエンレイソウ/シラネアオイ/イカリソウ/シュラン/カタクリ etc...これから初夏にかけては山野草のシーズン。屋外展示場を散策した際は、足元を注意してみてくださいね。さりげなく咲く、可憐な姿に出会えるはずですよ。

石神の丘に トンキーを飛ばそう!

美術館ホールに新しい本を設置しました。岩手町葉木田の千葉勝彦(ペンネーム千種拓夢・ちぐさひろむ)さんが出版した《ダンブリガエルのトンキー》です。物語の舞台は石神の丘。〈やんたおじさん〉と〈トンキー〉と名付けられたダンブリガエル(千葉さんの造語で「竹とんぼ」のこと)の心の交流が描かれています。この本や、千葉さんが製作した竹とんぼは、道の駅で販売しています。あなたも石神の丘にトンキーを飛ばしてみませんか。



美術館隣接 道の駅/レストラン「石神の丘」情報

このコーナーのお問合せ・ご予約は 道の駅「石神の丘」 TEL0195-61-1600まで

道の駅・石神の丘オリジナル 携帯ストラップができました

岩手町の特産品をモデルにしたキャラクター「たまなぼうや」(モデル:キャベツ「春みどり」)と「ブルーベリーナ」(モデル:ブルーベリー)が携帯ストラップになりました。記念に、おみやげにいかがですか。



ビーズ付ストラップ 360円
手づくり人形風ストラップ 380円

産直のほか、美術館でも販売しています

★★北緯40度(市町村)★★ 味めぐりコース料理

〈食前酒〉ブルーベリーワイン(岩手町)〈オードブル〉芽ワカメ(普代村)ねばり芋(岩手町)杜仲茶ポーク生ハム(八幡平市)に山葡萄(葛巻町)のソースを添えて〈スープ〉奥羽牛(岩手町)ホロホロ鶏(八幡平市)龍泉洞の水を使ったコンソメスープ〈魚料理〉白身魚のポアレ(普代村)〈肉料理〉やまと豚ヒレ肉(岩手町)とくずまき牧場ゴーダチーズのグリル〈パンorライス〉〈季節のサラダ〉〈デザート〉菊池牧場さんの牛乳を使ったプリン(岩手町)〈オーガニックコーヒー〉(龍泉洞の水でドリップ)



¥3,500
上記番号へ要予約